

福祉関係団体・事業所ヒアリングアンケート調査結果

I 調査の目的

市内の福祉関係団体・事業所が普段の仕事や活動を通して、市内の現状に対して感じている率直な意見や考えを把握し、第5期交野市地域福祉計画・地域福祉活動計画の策定の基礎資料とするため実施した。

II 調査の概要

(1) 調査対象数

市内の福祉関係団体・事業所 46団体

(2) 調査方法

郵送、FAX、WEB、メールによる回答

(3) 調査期間

令和7年4月16日(水) ~ 令和7年5月9日(金)

(4) 調査回収数・回収率

調査対象数	回収数	回収率
46団体	25団体	54.3%

※郵送19件、WEB6件

Ⅲ 調査結果

基本目標1 地域のつながりをつくる

【主な取組み】

- 人権週間街頭啓発、人権週間記念事業、男女共同参画フェスティバルの実施
各種相談受付(人権相談事業 相談件数(14件)女性相談事業 相談件数(29件))
※令和5年度実績
- 校区福祉委員会(9か所)にて「あいさつ」「見守り」それぞれの地域のニーズや特性に合わせた形で実施。(＜例＞通学時間帯に学校通用門前であいさつをする、通勤・通学時間帯に駅前であいさつをする、通学時間帯に交通量の多い地点で安全見守りをする。)
- 校区福祉委員会(9か所)で実施
<いきいきサロン活動>回数593回 参加者9,054人 協力員3,214人
<独居高齢者懇談会>回数3回 参加者81人 協力員38人
<共生型サロン活動>回数214回 参加者2,828人 協力員776人
<子育てサロン活動>回数111回 参加者1,623人 協力員1,025人
<世代間交流活動>回数79回 参加者6,888人 協力員1,003人等々※令和5年度実績

問1 人権意識や福祉のこころを育む広報啓発の充実

評価する	ある程度評価できる	改善すべき点がある
7件	15件	3件

問1-1 上記のとおり評価した理由(一部抜粋、字句修正有)

- ① 市広報で人権啓発イベントの発信、公共施設や広報板でのチラシ・ポスター掲示をよく見かける。ひろば内でもチラシが掲示されている。
- ② 研修などは開催されており、興味のある方には伝わっているが、周知不足で不満の声もある。
- ③ 「手話で対応する」などの啓発をよく見かけるようになった。
- ④ 一般の方も参加できる研修など様々な活動が行われており、参加者数も多い。
- ⑤ 街頭啓発などにより、市民が人権尊重の意識を持てているか不明。

⑥ 認知症の講座を開いた際、年齢に合わせた地域交流が行われていることを知った。
⑦ 広報活動などを見かけることが増えてきているように思う。
⑧ 人権意識や福祉のこころをはぐくむ広報啓発の充実につながっているのかはわからないが、活動内容は意味があるものが多いと思う。サロン活動は多くしているように思う。
⑨ 市の取り組みを知らない市民がいる。
⑩ 人権や福祉に関する啓発活動は大切。啓発活動により、様々な方とのつながりや関係性を築くことができ、人権意識の向上や福祉のこころを育むことができると感じる。
⑪ 市民に人権意識が浸透するほどの啓発活動はできていない。障がい者が職場でいじめにあっているケースがいくつもあるが、障がい者自身も「いじめられるのは自分のせい」と思って我慢したり、解雇されて引きこもりになっている。自分に障がいがあっても、大切にされる存在であること、尊重される存在であることを知ってほしい。地域の人も共存し、相手の立場を理解して尊重合えるよう、理解啓発が必要だと思う。
⑫ 人権週間の街頭啓発など知られていなかった。
⑬ 権利擁護等のイベント開催を増やす必要がある。

問2 誰も自殺に追い込まれることのない社会の実現（自殺対策計画）

評価する	ある程度評価できる	改善すべき点がある
4件	12件	9件

問2-1 上記のとおり評価した理由（一部抜粋、字句修正有）

① ゲートキーパー養成講座の開催を依頼し、団体内で受講した。
② ひとり親家庭、困窮家庭、学びの格差など世間に知られていることについては対策も少しずつ進んでいるが、周りにみえないネット社会、いじめなどはまだ多くあると思う。
③ 大切な取り組みであるが、市が自殺対策に力を入れているというところは計画からは見えなかった。具体的にどのような事をすればよいのかがあれば良いと感じた。
④ ゲートキーパーが実際に実働しているのか、世代別での活動が可能なのか具体的にわからない。
⑤ 自殺対策計画というものがあるということは良いことだと思う。
⑥ つながりをつくる活動は取り組んでいると思う。

⑦ 孤立して自殺するケースが0件となるよう取り組みたい。
⑧ 自殺を未然に防ぐために、地域とのつながりが持てるコミュニティなどの設置や気軽に相談できる環境整備の必要性を感じている。
⑨ 市で自殺した人数や原因がわからない。まずは実態を把握する必要がある。
⑩ フリースクールなど学校に縛られない居場所がより増えていくことが大切。
⑪ 市内在住だが、自殺対策に関する啓発を見かけたことがない。
⑫ 相談できる窓口等が少ない。

問3 手話への理解の促進と普及

評価する	ある程度評価できる	改善すべき点がある
6件	15件	4件

問3-1 上記のとおり評価した理由（一部抜粋、字句修正有）

① 市の行事などで手話通訳者をよく見かけるようになったが、市民にまで浸透しているとはいえない。
② 社会福祉協議会が夏休み、春休みに手話講座を開催していたのが良かった。
③ 手話を必要とする方に対して配慮していると思う。
④ 社会的に重要な問題のため、力を入れて相談に乗ってもらえる人や場所が必要だと思う。
⑤ 手話に取り組んでいる人も多く、手話で相談対応している場面を見かける。
⑥ 実際に生活している中で手話が普及しているように感じない。
⑦ 手話のボランティアから様々な活動の話聞き、普及に取り組んでいることを知った。
⑧ 地域のつながりをつくる活動はしているが、手話への理解と促進と普及に関してつながるものがないように思う。
⑨ 市民が気軽に手話を学べる（手話と触れ合う）機会の必要性を感じる。例えば、日曜日や祝祭日にフレンドタウンなどのショッピングセンターで手話と触れ合える機会があると手話への理解がより広がっていくと思う。
⑩ 無料で手話講習会を開催しているのは評価できるが、若年層の手話通訳者育成は難しく、ゆうゆうセンター内にも手話通訳者がいない状況は課題である。
⑪ 手話を覚えるには、音楽イベントなどで体感することがよい。
⑫ 手話への理解や普及の機会があったことが知られていない。

問4 人権や福祉に関する教育の推進

評価する	ある程度評価できる	改善すべき点がある
5件	16件	3件

※未回答1件

問4-1 上記のとおり評価した理由（一部抜粋、字句修正有）

① 市民講座などは行われているが、地域のまつりやにぎわいフェスタのような市民まつりなどで直接伝える場をもってもよいと思う。
② 小学校などで介護体験などを学ぶ場が広がっているが、高齢者だけでなく、障がい福祉も広める必要がある。
③ 人権に対してはしっかり計画できていると思う。
④ 人権や福祉に関する教育により、人権意識の向上や福祉の大切さを学べるので重要な取り組みだと思う。小中学校での教育だけでなく、大人も講座などで定期的に学ぶ機会が必要だと感じる。
⑤ 地域の子どもや若者にふれあう機会がなく、障がい者は福祉サービスの中で生きている状態になっている。
⑥ 他市と比較して道徳教育は進んでいるが、人権教育は進んでいない。
⑦ 専門職や高齢者以外の世代へのアプローチが知られていない。

問5 あいさつ・見守り・声かけ活動の促進

評価する	ある程度評価できる	改善すべき点がある
16件	7件	1件

※未回答1件

問5-1 上記のとおり評価した理由（一部抜粋、字句修正有）

① 小中学校登下校時の地域の見守りは定着してきている。
② あいさつ運動などは実践できている。
③ 学校の前や通学路であいさつ運動している人をよく見かける。
④ 小学校の下校ルートで、見守隊のような保護者がいたことは良い。
⑤ 定期的に行っているあいさつ運動、校区ごとの見守りは良い。
⑥ 地域のつながりの中で、あいさつは市民の役割の一番に挙げられていて大切な取り組みだと感じた。
⑦ 朝通学路で子どもとふれあい、笑顔で接している現場を見かける。
⑧ 児童の登下校時に旗をもって元気に挨拶をする姿は素晴らしいと思う。

⑨ あいさつ、見守り、声掛けで、地域とのつながりを保つことができ、防犯や自殺への対策にもなると感じる。
⑩ 通学の見守り以外で見たことがない。障がい児の通学支援をしてくれる人がなかなか見つからず、地域に助けを求める関係性までにはなっていない。
⑪ 校区福祉委員の方をよく見かける。日頃から笑顔であいさつをしている。

問6 住民同士が交流できる場づくり

評価する	ある程度評価できる	改善すべき点がある
5件	15件	4件

※未回答1件

問6-1 上記のとおり評価した理由（一部抜粋、字句修正有）

① 評価できるが、地区により差がある。また、今後は世代交代が課題となる。
② 健康福祉フェスティバルを更に活気あるものにする必要がある。
③ 地域ではまつりやイベントは活発に行われているが、日頃から世代を超えて交流できる場があるとよい。
④ 個人情報保護の弊害もあり、以前に比べて住民同士の交流は減ったと思う。
⑤ 福祉関係のサロンを充実する必要がある。
⑥ 転居してきた方に情報（子育てサロンなどの情報）が行き届いていない。
⑦ 住民同士が交流できる場が更に増えるとよい。
⑧ 地域で差はあるが、校区ごとに様々な交流の場がある。
⑨ 災害発生時に住民同士が助け合う環境を整備するため、交流できる場の必要性を感じる。住民同士のつながりが大切だと思うので、住民が気軽に参加できるような機会をつくるのが大切。
⑩ 要支援前段階の人が過ごす場が少ない。介護予防になるような居場所がもっとあればよい。また、働く障がい者が集う居場所がない。
⑪ 交流できる場所への交通手段が課題であったが、おりひめバスにより改善すると思う。

問7 【基本目標1 地域のつながりをつくる】全体の取り組みについてのご意見をお聞かせください。

① 地域住民や市民活動団体との連携や協働にも力を入れることが必要。
② 地域でのトラブルが一番大きな要因だと思います。民生委員の活動もみえにくいです。

③	実施回数では評価できない。内容がおもしろくないとの話もあるため、取り組みの見直しを検討することが必要。
④	サロン活動などを頻繁におこなっていることは良い。
⑤	皆が相談窓口に出向きやすい雰囲気づくりに取り組むことが必要。
⑥	地域でのつながりを持ってない人がいるため、気軽に参加できる機会を増やしたい。
⑦	意欲的に活動されていない方に対するアプローチがあればよい。世代間で価値観は違うが、サロン活動などは充実しているように思う。
⑧	自治会等への加入促進に注力すべき。
⑨	地域のつながりをそれぞれが役割を持ってつくる取り組みはとても大切。人権意識の向上や自殺対策など、市民の誰もが気軽につながれる場所づくりや参加できる仕組みが必要。
⑩	積極的に参加する人はよいが、家で引きこもっている人への支援が少なく、実情が把握できていない。

基本目標2 地域福祉の担い手をつくる

【主な取組み】

- 北河内地域介護人材確保連絡会議にて生活援助員養成研修年2回開催し、介護の担い手を養成、フォローアップ研修の開催により、修了者と事業者とをマッチング。
- ボランティアグループ連絡会所属グループ：10 団体、その他のグループ：7 団体
登録ボランティア人数：302 人、ボランティア依頼件数（個人）：47 件
ボランティア依頼件数（団体）：60 件、ボランティア依頼件数（延べ）：107 件
ボランティア活動人数（延べ）：6,798 人※令和5年度実績
- 交野市地域ケースネットワーク会議にて地域の課題を各専門分野にて検討していき、官民共同の包括的な取り組みで問題解決を図る。

問1 地域福祉の担い手の確保

評価する	ある程度評価できる	改善すべき点がある
6件	12件	6件

未回答1件

問1-1 上記のとおり評価した理由（一部抜粋、字句修正有）

① もっと若い人への講座などがあればよい。
② マンパワーが増えているように見えず、同じ顔ぶれになっている。民間と市と一緒に取り組めるとよい。
③ ボランティアやリーダーなどの育成に力を入れていることは理解できる。
④ 市独自の補助金があることは評価できるが、制度の認知度が低い。
⑤ 民生委員も引き継ぎ時、引き受ける人が少ない。生活支援員は現場でどのような取り組みをしているのかわからない。
⑥ 今後のことを考えると、もっと担い手を増やす必要を感じる。ちょっとした強みを生かしていくとよい。
⑦ 実際、介護の担い手として生活援助員養成を行っているが、効果や実際に事業者とのマッチングの事例がどの程度あるのかわからない。
⑧ 市内だけでなく、市外で活躍する団体等の助けを積極的に得るべき。
⑨ 福祉の担い手は少なく非常に大切な取り組みだと感じる。ボランティアだけでなく支援員の確保ができる体制づくりや、継続して福祉に従業していける環境づくりが必要。福祉に相応しい人材を見極めて確保していくことも大切。

- | |
|--|
| ⑩ 人口減少と高齢化のため、地域を支える人は年々減っている。善意に頼ることはもう難しい。 |
| ⑪ 社会福祉協議会と円滑に連携できれば促進する。 |
| ⑫ ボランティアに支えてもらっており、皆いきいきと活動している。 |

問2 多様な活動機会の充実

評価する	ある程度評価できる	改善すべき点がある
4件	16件	4件

※未回答1件

問2-1 上記のとおり評価した理由（一部抜粋、字句修正有）

- | |
|---|
| ① 「ボランティア」の概念をもう少し広くとらえ、営利ではない有償の活動をしている団体も含めて考えることが必要。 |
| ② 校区、地区ごとに活動されていると思うが、今後どう続けていくかが課題。 |
| ③ ボランティアの定義の理解や人間関係の難しさもあると聞く。 |
| ④ ボランティア活動などは充実していると思うが、地域の担い手につながっているのかはわからない。 |
| ⑤ 参加メンバーが固定されているように感じる。 |
| ⑥ 事業者の垣根を越えて交流できる機会や、気軽に参加できる活動等を設けていくことで、継続して福祉に携わっていくことができる。 |
| ⑦ ボランティアセンターがあることは評価できるが、特定の人が集まるサークル化している気がする。不特定多数の人が気軽に参加できれば良い。 |
| ⑧ 多様な活動の機会がより充実していく必要がある。 |

問3 担い手が活動しやすい環境づくり

評価する	ある程度評価できる	改善すべき点がある
3件	13件	8件

※未回答1件

問3-1 上記のとおり評価した理由（一部抜粋、字句修正有）

- | |
|-----------------------------------|
| ① 社会福祉協議会がもっと身近な存在になってほしい。 |
| ② 担い手が育っているという実感がない。 |
| ③ 若い世代の人材発掘が必要。 |
| ④ 具体的にどのような活動をするのか、イメージできると良いと思う。 |

⑤ 活動できる環境の情報源が周知できているかわからない。
⑥ 活動できる場や機会を増やすほか、周知することがもっと必要。
⑦ 需要と供給のミスマッチを感じる。
⑧ 福祉に初めて携わる方でも気軽に参加できる活動機会を設けることは大切。
⑨ オンラインなどを活用して、効率よくアクセスできるようにする。
⑩ 活動できる高齢者も多いが、交通手段が課題となるケースが多い。

問4 地域において、ちょっとした困りごとをサポートする体制づくり

評価する	ある程度評価できる	改善すべき点がある
3件	15件	7件

問4-1 上記のとおり評価した理由（一部抜粋、字句修正有）

① 具体的に誰に相談すべきかわからない。
② その体制自体あることを知らない。もっと周知が必要だと思った。
③ 自治会、老人会も負担があり入らない人が多くなっている。
④ ちょっとした困りごとをどのように感知しているのか具体的に知りたい。
⑤ ちょっとした困りごとはたくさんあるが、サポート体制が少なく、知らないことが多い。
⑥ 「まるまど」が広がり、住民の認知度が高まればよい。
⑦ 必ず困りごとは出てくると思うので、その時に的確にサポートしてもらえる環境や体制は必要。
⑧ ゆうゆうセンターがあるので相談しやすい環境にはあるが、インフォーマルなサービスにはつながりにくい。

問5 地域福祉のセーフティネットの構築

評価する	ある程度評価できる	改善すべき点がある
3件	19件	3件

問5-1 上記のとおり評価した理由（一部抜粋、字句修正有）

① セーフティネットは福祉、医療などと連携しながら一定はできている。
② 業務計画（継続計画）BCPの市役所における具体策を知りたい。
③ 郵便局を含め、宅配業者との連携を深めるべき。
④ 担い手をつくる上でもセーフティネットの構築は重要。

⑤ 社会福祉協議会と生活保護以外にセーフティネットが思い浮かばない。

問6 【基本目標2 地域福祉の担い手をつくる】全体の取り組みについてのご意見をお聞かせください。

① 地域福祉の担い手が「すべての人」であるならば、地域や福祉自体がそれぞれの「自分事」になるようなしかけが必要。
② 市の動きに対して実感がない。もっと広げていくべき。
③ ボランティアの育成には、まちの魅力が必要だと思う。
④ 活動できる年齢の方も仕事などをしているので、市の職員もボランティアへの積極的な参加を期待する。
⑤ 超高齢化社会へと時代が進んでおり、老人が老人をサポートしていることが現状。福祉関係の職に就いているが、若い世代が福祉に興味を持ってもらえるように関わられる機会ができればよいと思う。
⑥ 地域福祉の担い手をつくることの難しさはあると思う。地域ケースネットワーク会議で地域課題を検討されているが、具体的な課題や活動実績を知りたい。生活援助員養成講座は効果的なのかは疑問。今後、効果検証が必要。
⑦ 人口減少社会にあって、市内の地域組織の弱体化が進んでおり、再編を進めるべき。
⑧ 福祉の担い手が少ない中でも、若い世代が気軽に参加できる活動機会や継続して地域福祉に参加できる仕組みづくりはとても大切。
⑨ 役に立ちたいと思っている障がい者の方をコーディネートする者は、有資格者などを有料で雇わないと難しいと感じる。活動するのは市民だが、マッチングするスキルは必要だと思う。
⑩ 学生アルバイトを活用する手段がある。
⑪ 担い手は高齢者（60代以降）が多いため、様々な世代が互いに助け合えるとよい。年配の方以外の担い手をつくる必要がある。

基本目標3 自分らしい暮らしを支える仕組みをつくる

【主な取組み】

- 支援を実施するための環境づくり（交野市生活困窮者就労準備支援事業業務に関する協定）（協定締結6法人）
- 長期間就労していない等、ただちに就労が困難な相談者に対し、社会福祉協議会内での就労に向けた作業等を行う（相談者2名）※令和5年度実績
- 住居確保給付金の申請要件を満たす方へ申請支援。相談実人数：27人申請者数3人
※令和5年度実績
- 元気アップ教室の開催回数947回、参加者数14021人
認知症サポーター養成講座の開催12回、参加者数304人
認知症サポーターステップアップ講座の開催1回、登録者数8人、団体支援活動5件
個別支援活動2件※令和5年度実績
- 交通系ICカード等活用運賃補助事業4,298件、タクシー等利用助成事業：1,372件
寺・神宮寺地区巡回バス：164件※令和5年度実績

問1 権利擁護に関する支援の充実（成年後見制度利用促進計画）

評価する	ある程度評価できる	改善すべき点がある
5件	16件	3件

※未回答1件

問1-1 上記のとおり評価した理由（一部抜粋、字句修正有）

① 体制としては充実してきているが、一般的には浸透していないように感じる。
② あまり分からない。実感がない。
③ 高齢者の後見制度は、ケアマネージャーが世話をしてくれている。
④ 利用する人も増えていると感じる。今後は、利用促進が必要。
⑤ 福祉総務課に成年後見の件で相談することがあったが、相談しやすかった。
⑥ 制度そのものを知らない市民が多く、周知に注力すべき。
⑦ 成年後見制度のわかりやすい講座など、権利擁護に関する啓発促進は大切。
⑧ 相談窓口がゆうゆうセンターにあるのは良いが、市民への周知が必要。
⑨ 必要な方にスムーズに活用できないケースがあった。

問2 再犯防止に向けた取組の推進（再犯防止推進計画）

評価する	ある程度評価できる	改善すべき点がある
4件	13件	6件

※未回答2件

問2-1 上記のとおり評価した理由（一部抜粋、字句修正有）

① 計画立てられており、重要な取り組みだと思う
② よく知らない。具体的な取り組みがわからない。
③ イベントで交野女子学院との交流があった。
④ 再犯防止のための定期的なフォローアップ体制など、再犯防止の取り組みはとても大切。更生した方の話を聞く機会などを設けることで、再犯を防止するだけでなく犯罪を未然に防ぐことができ、市民の防犯意識の向上にもつながる。
⑤ 再犯防止は保護司のみに頼っている。
⑥ 交野女子学院と市との共同もできている。

問3 総合的な相談支援体制の充実

評価する	ある程度評価できる	改善すべき点がある
6件	13件	2件

※未回答2件

問3-1 上記のとおり評価した理由（一部抜粋、字句修正有）

① 民生委員や児童委員は何をしている人が知らない人が多いと思う。
② 担当利用者が多いので、充実はしていないがよく働いていると感じる。
③ 相談する場所や周知が必要。
④ 広報を見ている方には情報が行き渡り、相談支援につなげることができる。
⑤ 相談支援体制が明確化されており、充実するよう取り組まれている。
⑥ 「まるまど」の強化、充実が必要。
⑦ いつでも気軽に相談できる体制をつくるためにも相談支援体制を充実していくことは大切。
⑧ 相談支援に横のつながりがあるのは連携できていてよいが、数が少なく、業務内容がわかりにくい。また、人によって対応に差がある。
⑨ 地域包括支援センターに電話相談したが訪問対応がなく、支援が必要な人が漏れてしまっていることがあった。

- ⑩ 市の各部署において、丁寧に対応できている。
- ⑪ ワンストップ窓口の明確化と充実が必要。

問4 生活困窮世帯への支援の充実

評価する	ある程度評価できる	改善すべき点がある
6件	15件	3件

※未回答1件

問4-1 上記のとおり評価した理由（一部抜粋、字句修正有）

- ① 生活に困っている人は増えていくと思うので、相談したら助けてもらえる仕組みが必要。
- ② 生活保護の相談窓口では、傾聴の姿勢をもってきている。
- ③ 子ども食堂は常時開いていないと希望する時に食事ができず、子どもの期待を裏切ってしまう。また、年金だけで生活されている方の中、中間所得層にも困窮者がいる。
- ④ 十分とは言えないまでも、支援は広がっていると感じる。
- ⑤ 生活困窮者自立支援事業を強化すべき。
- ⑥ 生活困窮世帯が気軽に相談できる環境や支援の充実は必要。
- ⑦ 社会福祉協議会や生活福祉課のサポートはあるが、地域の相談先が思いつかない。
- ⑧ 地域で支援につながっていない人の把握が必要。

問5 健康支援や生活支援の充実

評価する	ある程度評価できる	改善すべき点がある
8件	13件	3件

※未回答1件

問5-1 上記のとおり評価した理由（一部抜粋、字句修正有）

- ① 高齢者へ向けた取り組みは様々見かけることがある。（元気アップ体操、外出支援など）
- ② 健康支援、生活支援は重要だと思う。健診の促進やすぐに相談できる場所があればよいと思う。
- ③ 元気アップ体操などの活動により健康支援もできているが、参加者が高齢化している。

④ 健康への関心が高い高齢者の参加がよく見られる。
⑤ 高齢者がいつまでも健康でいられることや、生活面での困りごとに対する適切な支援は大切。
⑥ 個人任せになっている印象を受ける。

問6 【基本目標3 自分らしい暮らしを支える仕組みをつくる】全体の取り組みについてのご意見をお聞かせください。

① ひとりひとりが「自分らしい暮らし」とはどういう暮らしなのかを考える場があればと思う。
② ちょっとした悩みでも相談できる窓口があり、それを皆に知ってもらう事がまずは大切。
③ おりひめバスを利用し目的地まで行くことをアピールする。
④ 地域でつながり、まち全体で支える取り組みはすごく良いと思う。
⑤ 相談支援は窓口に来られる方に対するアプローチだと思うが、そうしたことが難しい方のためにもアウトリーチが必要。
⑥ 地域ぐるみというのが難しいと思う。
⑦ 地域住民の少しの変化や異変にすぐに気づくことで、様々な問題を未然に防ぐことができる。そのためにも地域住民の暮らしを支える仕組みづくりは大切。
⑧ 地域の相談役に、支援制度があることを知ってもらうことが必要。早期に支援につながることであればよい。

基本目標4 安全・安心な地域をつくる

【主な取組み】

- 防災出前講座6回約120名参加、地区防災訓練18地区約3,400名参加、地区での自主的な防災組織の育成と活動のため支援研修5回144名参加※令和5年度実績
- 避難行動要支援者事業全体交流会：各地区を周っての意見交換会の実施
避難行動要支援者2,387人、個別支援計画作成数2件※令和5年度実績
- 「防犯教室」市内小学校1年生対象：合計9校663名オンライン(zoom)を活用して実施
「下校指導」市内小学校1.2年生対象：合計4校514名
「幼児防犯教室」市内認定こども園等11園5歳児対象：合計413名
「特殊詐欺対策機器貸与事業」一人暮らし高齢者、高齢者世帯、昼間のみ高齢者世帯を対象に貸出100台※令和5年度実績
- 「高齢者交通安全リーダー」の研修会42人参加、「小学校交通安全教室」市内小学校1年生を対象9校、「自転車交通安全教室」市内小学校4年生を対象9校、「幼児交通安全人形劇」市内認定こども園14園、「歩行訓練」認定こども園12園実施※令和5年度実績

問1 防災に関する知識の普及啓発や地域の自主防災活動の促進

評価する	ある程度評価できる	改善すべき点がある
8件	14件	3件

問1-1 上記のとおり評価した理由（一部抜粋、字句修正有）

① 防災出前講座や施設の防災訓練等に参加したことがある。小学校での「防犯教室」は知らなかったがとても良いと思う。
② とても必要なことだと思う。市から想定される災害を市民に知らせて、いざという時に命を守る行動ができるようにすべき。
③ 地域のつながりを持ち、防災訓練などもしっかり取り組んでいる。防災意識も徐々に高まってきている。
④ 地区で防災訓練を実施しているが、一部の者の負担が大きく、防災訓練などの参加者が固定化されている。
⑤ 防災意識の向上のために、防災講座など定期的に防災に関する学習や実演などを用いたイベントを開催し、啓発活動をしていくことは大切。

⑥ 防災研修は開催しているが、具体的にどうしたらいいのかわからない。災害を想定したシミュレーションが必要。
⑦ 市長が発端となり市民の防災意識も高まっている。
⑧ 多様な世代にアプローチされている。

問2 災害時の支援体制の整備（おりひめ支え愛プロジェクトの推進）

評価する	ある程度評価できる	改善すべき点がある
5件	13件	7件

問2-1 上記のとおり評価した理由（一部抜粋、字句修正有）

① おりひめ支援の活動がある時点で止まっている。
② おりひめ支え愛プロジェクトの内容を詳しく知りたい。良いプロジェクトなら皆にも知ってほしい。
③ 広報からしか情報を得られない独居の方も多く、頼れる人も見つけづらい。
④ 災害時に備えた取り組みを見かけることが増えた。
⑤ BCPの兼ね合いから、事業所としてもおりひめ支え合いプロジェクトは周知しているが、あまり知られていない。個別避難計画も、どの程度進んでいるのかわからない。
⑥ プロジェクト自体を知らなかった。生活の中で「支え愛プロジェクト」を実感することがない。
⑦ 災害時の支援体制の整備は大切。また、どのような支援体制があるのか、災害時の支援の求め方などを周知していく仕組みづくりも大切。
⑧ 全く機能していない。登録者の顔を見に来てくれない。
⑨ 問い合わせ先等の詳細を周知する必要がある。
⑩ 南海トラフや津波等を想定した避難場所の確保が必要。

問3 防犯意識の向上、地域における防犯活動、交通事故対策の啓発、促進、推進

評価する	ある程度評価できる	改善すべき点がある
7件	12件	5件

※未回答1件

問3-1 上記のとおり評価した理由（一部抜粋、字句修正有）

① 登校時、警察の見守りなど連携ができており安心できる。
② 今後も続けることが重要。

③ 自治会に入らないため、独居の人の把握ができていない地域がある。
④ 犯罪も身近なものになっているので、今後も推進することが必要。
⑤ 高齢者に対する詐欺等の防止対策が必要。歩道等の道路整備が必要。
⑥ 防犯講座や交通安全講座など気軽に参加できる機会を設けて防犯意識の向上や交通事故対策の啓発等を行っていくことは大切。危険な地域は、何が問題になっているのかを検討し対策することが、意識向上や促進につながっていく。
⑦ 個人の責任に任されている状況。

問4 【基本目標4安全・安心な地域をつくる】全体の取り組みについてのご意見をお聞かせください。

① 防犯・防災に関しては市民の意識も高く、取り組みとしても充実している。
② 児童の見守りは評価したい。
③ 安全な地域だと思う。
④ 夜道でも安心して歩けるまちであり続けてほしい。
⑤ 高齢化が進む中、助けあえるよう声かけしやすい環境づくり、子どもたちの通学時の見守りの強化が必要。
⑥ 防災訓練は充実した取り組みをしている。 災害時の支援体制整備において、個別避難計画の作成はどの程度進んでいるのか見えない。市では詐欺被害も多いと聞くので、防犯意識などを含め周知活動の充実が必要。
⑦ 安全で安心な地域づくりがあってそれぞれの活動が促進されていく。非常時や災害時だけでなく、日頃からの地域住民のつながりがあって、安心して過ごせる地域をつくることができる。
⑧ 障がい者や高齢者の家に転倒防止ストッパーを配布するなど、具体的な防災の取り組みが必要。地域での防災訓練を要支援者に周知することが必要。
⑨ 民間団体が自由に啓発できるような環境整備が必要。
⑩ 要支援者が多くなり支え手が少ない状況に不安がある。市民を助けられる水分や食料、場所等の確保も必要。